

# 注意報

30病第17号  
平成30年8月30日

関係各位

京都府病虫害防除所長  
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

## 病虫害発生予察注意報第4号

### ネギにシロイチモジヨトウが多発しています ネギのほか、豆類および野菜類でも発生に注意してください

- 1 作物名 **ネギ、豆類（黒大豆、エダマメ、アズキ）、野菜類**
- 2 病虫害名 **シロイチモジヨトウ**
- 3 発生地域 **府内全域**
- 4 発生時期 **9月～11月**
- 5 発生量 **平年比多い**
- 6 警報発令の根拠

(1) 平成30年8月23日、27日及び28日に南丹および山城地域の露地栽培ネギで行った見取り調査の結果、シロイチモジヨトウによる被害ほ場率は61.9%で、地域により差はあるものの、多くのほ場で被害が認められた(+) (表1-1、表1-2)。

また、被害ほ場率は多発年である平成19年9月(50.0%)及び平成28年9月(40.0%)よりも高い(+) (表1-1)。

表1-1 ネギのシロイチモジヨトウ被害の経年比較

	平成30年8月下旬 調査結果	過去11年の調査結果(9月中旬巡回調査)										
		29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年	20年	19年
被害株率(%)	23.4	1.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.7	1.1	2.0
被害ほ場率(%)	61.9	25.0	40.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	16.7	16.7	28.6	50.0

表1-2 京都府南部におけるネギのシロイチモジヨトウ被害の状況(平成30年8月、42ほ場、25株調査)

調査場所 (8月23日調査)	被害 株率 (%)	調査場所 (8月27日調査)	被害 株率 (%)	調査場所 (8月27日調査)	被害 株率 (%)	調査場所 (8月28日調査)	被害 株率 (%)			
京都市 伏見区	淀1	32	亀岡市	宮前町1	0	京都市 伏見区	横大路	0		
	淀2	0		宮前町2	0		下鳥羽1	0		
	淀3	20		宮前町3	0		河原林町1	32	下鳥羽2	0
	向島1	100		宮前町4	4		河原林町2	40	竹田1	0
	向島2	60		宮前町5	0		河原林町3	8	竹田2	8
久御山町	坊ノ池1	100		宮前町6	0	河原林町4	8	竹田3	0	
	坊ノ池2	32	東本梅町1	40	河原林町5	8	竹田4	0		
	坊ノ池3	56	東本梅町2	16	南丹市 八木町	16	竹田5	0		
	坊ノ池4	60	東本梅町3	36		竹田6	0			
八幡市	内里	96	東本梅町4	36	京都市 伏見区	竹田7	0			
	岩田1	68	東本梅町5	12		竹田8	0			
	岩田2	80	東本梅町6	8						
平均(8/23調査)	58.7			平均(8/27調査)	14.3	平均(8/28調査)	0.7			

(2) 京田辺市におけるフェロモントラップへの誘殺虫数(7月第6半旬～8月第5半旬の合計値)は81.0頭で、平年の22.4頭を上回っている(+) (図1)。

また、本年度からフェロモントラップを設置した亀岡市および京丹後市でも、8月第4半旬から誘殺数が急増しており、上記期間の誘殺虫数は亀岡市で170.8頭、京丹後市で326.8頭と多い(図2および図3)。

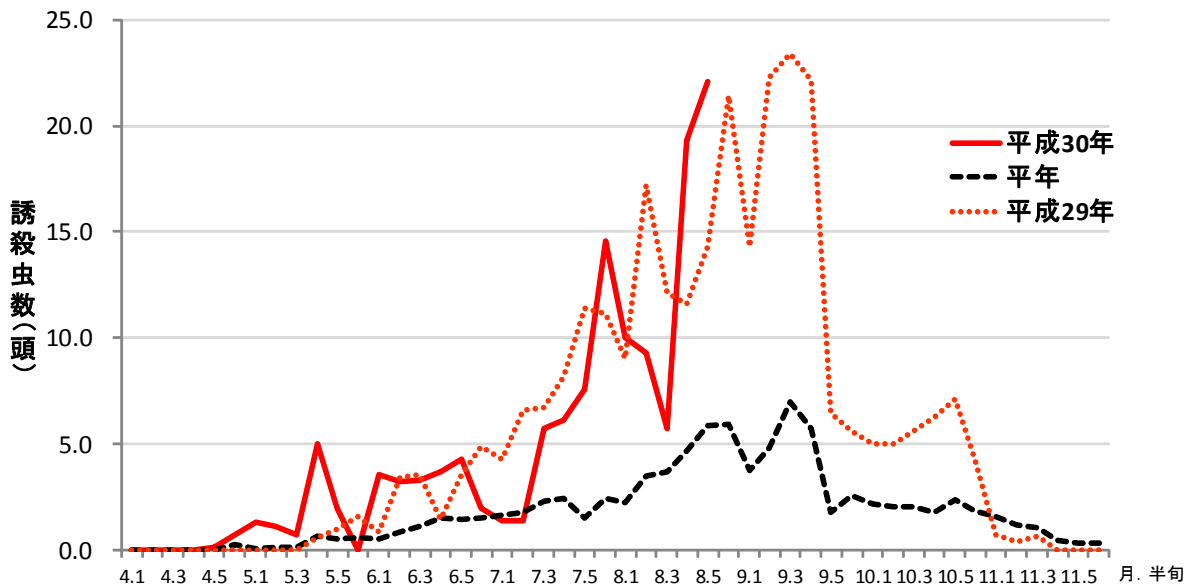


図1 フェロモントラップへのシロイチモジヨトウの誘殺虫数(京田辺市)

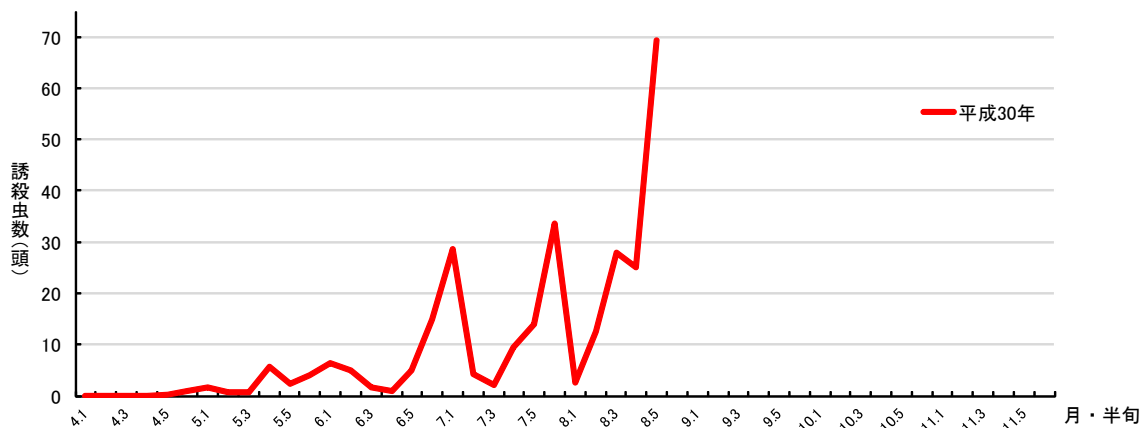


図2 フェロモントラップへのシロイチモジヨトウ誘殺虫数(亀岡市)

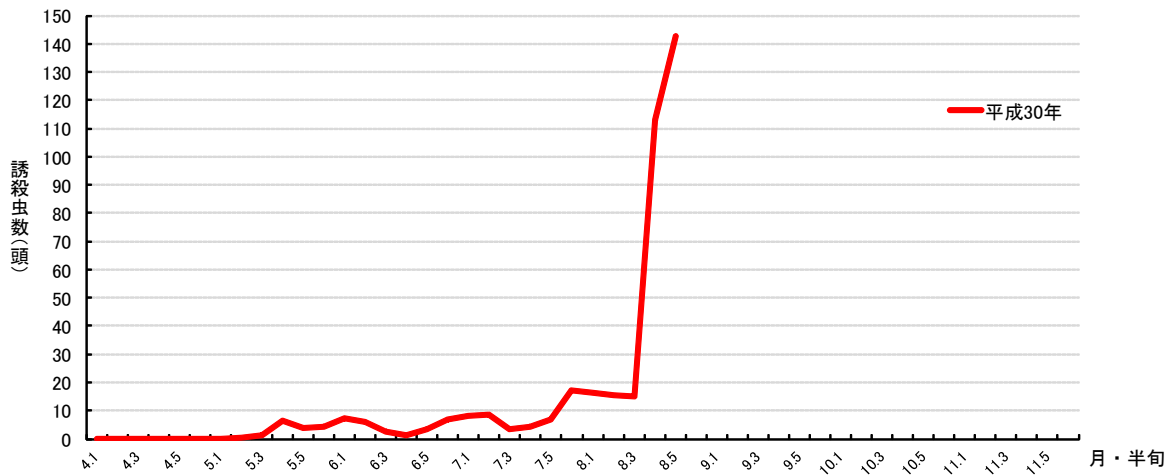


図3 フェロモントラップへのシロイチモジヨトウ誘殺虫数(京丹後市)

(3) 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量は日本海側で多く太平洋側で平年並または多いと予想されている。



写真1 シロイチモジヨトウの幼虫



写真2 シロイチモジヨトウによるネギ被害株

## 7 防除上の留意事項

- (1) 中老齢幼虫の薬剤感受性は低下し、ネギでは葉の内部に潜り込むと薬剤による防除効果が低下するので、ほ場をこまめに見回り、若齢期に防除を行う。
- (2) 性フェロモン剤による交信攪乱や黄色蛍光灯を組み合わせた防除を考慮する。
- (3) 被害葉及び収穫残さは本種の発生源となるので、残さは一箇所にとめて積み上げ、表面をビニル等で被覆する等、適切に処分する。
- (4) 本種は寄主範囲が広く、ネギ以外に豆類、野菜類、花き類を加害するので注意する。
- (5) ネギでの薬剤散布は表2を参考に、使用薬剤は異なる系統のものを扱い、同一系統の薬剤の連用は避ける。

なお、病虫害防除所で平成29年に実施した薬剤殺虫効果試験の結果は、表3および表4のとおり（平成29年9月21日付け「病虫害発生予察注意報第4号」を参照のこと）。

(6) 農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用する。最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」で確認すること。

(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)

表2「ネギ」でシロイチモジトウに登録のある主な農薬（平成30年8月29日現在）

IRACコード*	農薬名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数	備考
1A	ランネート45DF	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内	
	ラービン水和剤75	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内	
3A	アグロスリン乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内	
	アディオン乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	トレボン乳剤	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内	
4A	スタークル顆粒水溶剤 (アルパリン顆粒水溶剤)	50倍、 0.5L/株注/ セルトレイ、ペーパーポット	定植前日～定植時	1回	灌注	4回以内 (但し、は種時の土壌混和、育苗トレイへの 灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内 及び生育期の株元灌注は1回以内、散布 及び定植後の株元散布は合計2回以内)	
	(28) アベイル粒剤	40g/ セルトレイ、ペーパーポット	育苗期後半～定植当日	1回	株元散布	アセチアクト(モスビラン:IRACコード4A) 3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回 以内、植付時の土壌混和及び定植当日ま での株元散布は合計1回以内) シアントラコリアロール(ペネビアOD:IRACコード 28) 4回以内(但し、定植時までの処理は1回 以内、定植後の処理は3回以内)	
	(28) キックオフ顆粒水和剤	100倍 0.5L/株注/ セルトレイ、ペーパーポット	定植前日～定植時	1回	灌注	クロントラコリアロール(プレバソン:IRACコード2 8) 4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3 回以内) ジノテフラン(スタークル:IRACコード4A) 4回以内(但し、は種時の土壌混和、育苗 トレイへの灌注及び定植時の株元散布は 合計1回以内、生育期の株元灌注は1回 以内、散布及び定植後の株元散布は合 計2回以内)	
5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
6	アファーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	(15) アファームエクセラ顆粒水和剤	1,000～1,500倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	エマクチン安息香酸塩(アファーム:IRACコード 6) 3回以内 ルフェスロン(マッチ:IRACコード15) 3回以内	
	アニキ乳剤	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	
(28) ポリアムガンダム顆粒水和剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	エマクチン安息香酸塩(アファーム:IRACコード 6) 3回以内 クロントラコリアロール(プレバソン:IRACコード2 8) 4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3 回以内)		
11A	エコマスターBT	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—	
	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—	野菜類で登録 (ハクサイを除く)
	デルフィン顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—	野菜類で 登録
	フローバックDF	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—	
13	コテツフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	アタブロン乳剤	2,000倍	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	カスケード乳剤	4,000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	マッチ乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
15	ノーモルト乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	マトリックフロアブル	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ファルコンフロアブル	4,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
	ロムダンフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
18	ハチハチ乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	(22B) アクセルキングフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	トルフェンビラト(ハチハチ:IRACコード21 A) 2回 メタフルゾン(アクセル:IRACコード22B) 2回	
22A	トルネードフロアブル	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	
22B	トルネードエースDF	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
22B	アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
28	プレバソンフロアブル5	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	4回以内 (但し、灌注は1回以内、散布は3回以 内)	
	ペネビアOD	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (但し、定植時までの処理は1回以内、 定植後の処理は3回以内)	
	ベリマークSC	400倍 0.5L/株注/ セルトレイ、ペーパーポット	育苗期後半～定植当日	1回	灌注	4回以内 (但し、定植時までの処理は1回以内、 定植後の処理は3回以内)	
	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍、 株元灌注(0.5L/㎡)	収穫7日前まで	1回	株元灌注		
UN**	ブレオフロアブル	2,000～4,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
交信かく乱剤 ***	コンフューザーV	100本/10a (41g/100本製剤)	対象作物の栽培全期間	—	—	作物の生育に支障のない高さに支持棒等を立て支持棒 にディスプレイを巻き付け固定しほ場に設置する	野菜類で 登録
	ヨトウコン-S	100～500本/10a (露地)	シロイチモジトウの発生初 期～終期	—	—	作物上に支柱等を用いて固定する 使用量のめやす ・小面積(1～5ha):150～200本 ・大面積(5ha以上):100～150本	シロイチ モジトウが加 害する農 作物

\*殺虫剤コード。殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の運用を防ぐことができる。

\*\*作用機構が不明あるいは不明確な薬剤

\*\*\*IRACの分類に該当しないもの

表3 シロイチモジヨトウ3齢幼虫に各種殺虫剤を浸漬処理したネギ葉を与えた時の補正死虫率

IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	補正死虫率(%)		
			1日後	2日後	8日後
1A	ランネート45DF	1000	61.1	72.2	80.0
3A	アグロスリン乳剤	1000	0.0	16.7	40.0
4A	スタークル顆粒水溶剤	2000	0.0	0.0	0.0
5	ディアナSC	2500	100.0	100.0	100.0
6	アフアーム乳剤	1000	0.0	5.6	50.0
13	コテツフロアブル	2000	88.9	100.0	100.0
15	カスケード乳剤	4000	0.0	0.0	40.0
21A	ハチハチ乳剤	1000	16.7	27.8	30.0
28	ベネビアOD	2000	83.3	83.3	80.0
	フェニックス顆粒水和剤	2000	0.0	0.0	20.0
UN	プレオフロアブル	1000	55.6	83.3	100.0
	無処理(水道水)		0.0	0.0	0.0

供試虫:2017年7月14日に京都市伏見区淀のネギから採集し、人工飼料で累代飼育した2世代目の3齢幼虫  
 処理日:2017年9月6日  
 調査日:2017年9月7日、8日および14日  
 試験法:ネギ葉片浸漬法

表4 シロイチモジヨトウ3齢幼虫を各種殺虫剤に浸漬処理した時の補正死虫率

IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	補正死虫率(%)		
			1日後	2日後	8日後
1A	ランネート45DF	1000	10.0	10.0	15.0
3A	アグロスリン乳剤	1000	20.0	25.0	25.0
4A	スタークル顆粒水溶剤	2000	0.0	0.0	0.0
5	ディアナSC	2500	95.0	95.0	95.0
6	アフアーム乳剤	1000	0.0	0.0	0.0
13	コテツフロアブル	2000	70.0	70.0	70.0
15	カスケード乳剤	4000	0.0	0.0	10.0
21A	ハチハチ乳剤	1000	30.0	40.0	45.0
28	ベネビアOD	2000	5.0	5.0	10.0
	フェニックス顆粒水和剤	2000	5.0	5.0	5.0
UN	プレオフロアブル	1000	90.0	90.0	90.0
	無処理(水道水)		0.0	0.0	0.0

供試虫:2017年7月14日に京都市伏見区淀のネギから採集し、人工飼料で累代飼育した2世代目の3齢幼虫  
 処理日:2017年9月8日  
 調査日:2017年9月9日、10日および16日  
 試験法:虫体浸漬法